

Kenren No.72 Kanon

神奈川県
合唱連盟
機関・情報誌

2010年度 冬号

発行：2011.1.

年頭に寄せて



神奈川県合唱連盟
理事長 田中登志生

新年明けましておめでとうございます。

21世紀も丸10年を経過した事になり、そして神奈川県合唱連盟も54年目を迎える年となりました。私が理事長の役職を拝命して2年目に50周年を迎えたのですが、月日の経つのは本当に早いものだと実感致しております。

神奈川県合唱連盟は年間に14の事業を行っております。各事業に実行委員長1名と6名から8名の委員がその役を担当します。理事が36名ですので、当然3つ、4つの複数の事業を掛け持ちする事になっています。特に全国の合唱連盟から注目されている『地域と結ぶ合唱プロジェクト』(学校に合唱指導の講師を派遣する事業)などは年間80回から100回講師が学校に出向いているのです。

これだけでも理事の方々には多大な御協力を頂いているのですが、これらの年間事業に加え、関東支部や全日本合唱連盟の持ち回り事業が数年に1度ずつ入ってきます。因みに昨年8月には『関東おとろさんコーラス大会』(大さん橋ホール)を神奈川県主管で開催致しました。また今年10月には『コンクール関東大会』(横須賀芸術劇場)を主管する事が決定しています。本当に大変な役割を理事の方々をお願いしており、申し訳なく思い、又、感謝の気持ちでいっぱいです。しかし理事の多くの方々は、事業に参加する事によってそれぞれに強い連帯感が生まれ、奉仕の喜びを感じる事が出来ますとも仰って下さいます。本当に有り難い事と感じています。このような方々が事業を支えて下さっていますので、絶対に必要と思っている将来の音楽界、ひいては日本を背負う青少年の育成の為の4つの事業(地域と結ぶ合唱プロジェクト、ジュニア合唱祭等)が成り立っていると思います。

理事の方々にはもう少し楽なスケジュールを、そして連盟会員の皆様にとってもっと充実した企画をご提供できるようにするには、よりしっかりとした経済的基盤が必要であります。常に経済的なものと企画のバランスを考えているのですが、非常に難しい問題です。それに加えて、現在全日本合唱連盟からハーモニーの販売を拡大するようにとの通達がきており、この経済情勢下では大変厳しいものがあります。しかし、連盟と致しましては全日本からの依頼に対し、協力をする必要があると考えております。年の始めからお願い事で大変恐縮ではございますが、各団体のハーモニーの購入冊数を来年度より少し増やして頂きたいと思っています。

なお、具体的な事につきましては今後皆さんにご相談をしたいと思います。小さな力を合わせて、少しでも大きなうねりとなるように、理事一同頑張ります。本年もよろしくお願い申し上げます。

第45回クリスマス音楽会 「メサイア」演奏会



年末恒例のメサイア演奏会が2010年12月12日(日)に県立音楽堂で開かれました。
今回も小泉ひろし先生指揮、神奈川フィルハーモニー、ソリストにはソプラノ西由紀子、
カウンターテナー上杉清仁、テノール中嶋克彦、バリトン青山貴(敬称略)という豪華な顔触れ
での演奏会となりました。

合唱の参加人数はソプラノ71名、アルト63名、テナー 22名、バス24名の合計180名とたいへん大勢の参加で
した。音楽堂では、170名が限界と言われていたので、この人数にどうやって舞台に乗ってもらうか非常に苦労し
ました。また、参加された方々には窮屈な思いをさせてしまい、申し訳なかったと思います。この場を借りてお詫
びいたします。来年はもう少し締め切りを早めにし、人数を制限しないといけないかと思っています(募集定員
は170名ですが、申し込み受け付けは200名ほどで締め切りしました)。

この演奏会に向けては6回
の練習、ゲネプロ、本番と、最
初の一回を除きすべて小泉先
生に指導をして頂きました。
これだけ手厚い指導を受けら
れるメンバーは幸せだと思
います。今まで、何度も参加さ
れている方が多いのも頷けま
す。特に、各曲目について、『こ



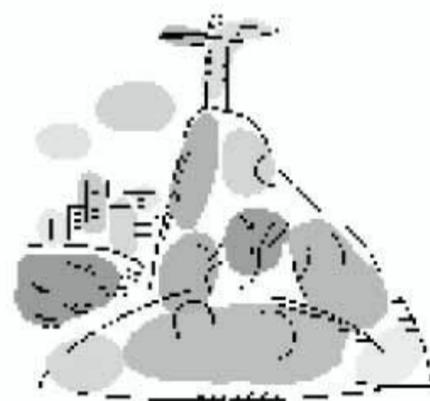
リハーサルの様子



こはイエス様が我々の罪を綺麗に掃いて清めてくださっているところ』『一転して、ここは市民の側に回って、イ
エスに「お前が神なら自分で自分を十字架から救ってみろ」と罵倒をしているところ』『受難のリズムは、イエス
様が十字架を背負って足を引きずりながら歩いている音』など、場面がよく分かるように指導して下さるのが印
象的でした。合唱団としての曲の解釈も、年を追うごとに深くなっている様に思います。

これからの課題は、若い人たちにこのメサイアを歌い繋いで貰うことです。このように素晴らしい機会がある
のに、参加しないのはもったいないですよ。昔はよく大学生、高校生も参加していたように思います。ぜひ来年は
エントリーしてみてください。

(実行委員長：飛永悠佑輝)



第16回ヴィサン《人生百歳》 ジョイントコーラス・フェスティバル



準備期間中、漁船問題で中国との国交が危ぶまれ、日本中のお巡りさん達が横浜に集結し、みなとみらい地区で開催されたAPECの規制に悩まされながら、2010年11月18日(木)、第16回ヴィサン《人生百歳》ジョイントコーラス・フェスティバルが、横浜みなとみらい大ホールにて開催されました。



ヴィサン実行委員の皆さん

話が横道にそれますが、今まで私はスタッフとして舞台裏で譜面台・指揮台・ピアノの設定や出演者の送り出し、たまに舞台上で全体発声指導、全体合唱の指揮など、4年間『舞台現場専門』でやってきたのですが、今年から県立音楽堂を通り越して、みなとみらい大ホールでの実行委員長デビューとなり、重いプレッシャーに押しつぶされそうでした。今まで長きにわたり実行委員長を務めていた高橋勝さん、主事の光末鎌子さんをはじめ、たくさんの方々に助けられ、何とか当日を迎えることが出来ました。

今回、講師には、現役で活躍されている声楽家の大倉由紀枝先生、三縄みどり先生をお迎えし、加盟31団体、非加盟11団体のうち県外から東京、栃木からも参加していただき、計42団体、延べ1240人の合唱を愛する方々が集まりました。どの団も本当に素晴らしい演奏で、また色とりどりのコスチューム、趣向をこらしたパフォーマンスなど、耳、目、心で楽しめるステージばかりでした。

恒例の各ブロックの全体合唱は、田中登志生理事長・平井保副理事長が指揮を担当し、舞台上にて、おたまじゃくしの会(ピアノ：木村裕平先生)・旭混声合唱団(ピアノ：石原朋子先生)・座間市民混声合唱団(ピアノ：鈴木美恵子先生)の皆さんに歌って頂きました。無理なお願いにもかかわらず、快く引き受けて下さり、本当にありがとうございました。

せっかくの素晴らしい演奏なのに、演奏中の空席が目立ってしまったことが、ただ一つ残念でなりませんでした。練習してきた成果をみんなで聴きあって、合唱の素晴らしさ、何より人生の素晴らしさを尚一層共感し合う！これもヴィサンのテーマの一つです。来年いよいよ日野原重明先生が100歳になられます！次回はもっともっと楽しいフェスティバルになるよう企画していますので、今後ともヴィサンをどうぞよろしくお願い致します。

(実行委員長 杉山範雄)



講師の大倉、三縄両先生



各団体の演奏の様子(抜粋)

『全国に響け！県代表合唱団』
密着取材～JCAコンクール全国大会

◎中学校・高等学校部門(10月30日,31日)
◎大学・職場・一般部門(11月20日,21日)
兵庫県立芸術文化センター
KOBELCO大ホール(兵庫県西宮市)

昨年秋、全日本合唱連盟(JCA)が主催する第63回全日本合唱コンクール全国大会が開催されました。神奈川県からは6団体が出場し、全国から集まった有力団体との華やかな競演を繰り広げました。

ここ数年行っている現地取材と個別取材を織り交ぜて、その様子をお届けします。

■歌声が会場を包み込む～KOBELCO大ホール

ここ数十年なかったことですが、現在の部門制度が成立して以来、初めて中学校・高等学校部門と、大学・職場・一般部門が同じ会場で行われました。

今回開催された兵庫県立芸術文化センターは阪神淡路大震災の文化復興の記念として2005年に完成した新しいホールです。大阪、神戸から電車で15分、駅から



会場となった兵庫県立芸術文化センター
(画像：同センターホームページより)

徒歩1分の好立地にあり、大中小の3つのホールを持つ大規模なホールでもあります。劇場の芸術監督には佐渡裕氏が就任しており、各種オペラやコンサートを企画・公演しています。

KOBELCO大ホールは2001人収容の大きなホールで、形状は東京文化会館をイメージしていただければわかりやすいかもしれません。その素晴らしい会場で神奈川県勢として口火を切ったのは清泉女学院です。

■全国一位と二位に輝く～清泉女学院

昨年、清泉女学院は輝きに満ちていました。

3月には声楽アンサンブルコンテスト全国大会で銀賞を受賞。その勢いに乗って、7月にはイタリアのセギツイ国際合唱コンクールに出場し、総合2位を受賞しました。また10月には中学校音楽部がNHK全国学校音楽コンクールの全国大会に出場。そして今回の全

国大会では中学音楽部が第1位となる『文部科学大臣賞』を受賞し、高等学校音楽部は第2位となる『兵庫県知事賞』を受賞するというダブル受賞を成し遂げました。



会場前で高等学校音楽部全員での集合写真

JCAのコンクール全国大会で中高同時に出場するだけでも大変な快挙ですが、同時に3位以内に入賞することは今回が初めてだといわれています。その清泉女学院を全国大会に導いた、顧問の佐藤美紀子先生にお話をお伺いしました。

～佐藤先生へのインタビュー(斜体は質問)～

★今回のコンクールに向けて何か特別に練習したことはありましたか？

私たちの学校では、必ず夕方5時には帰宅しなければなりません。いつもですが、練習時間が少なかったのは大変でした。

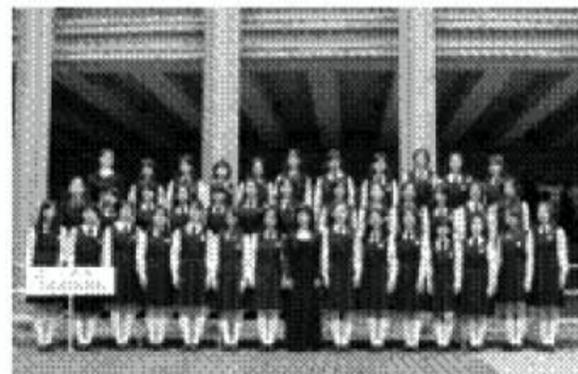


中学校音楽部の皆さん

ただ、中学生も高校生も、今回は今まで以上に合唱練習に力が入っているように思えました。また、ここ3年ほど続けている朝練でのボイストレーニングの効果が出てきているように感じています。

★曲についてお聞かせください。

高校生は前回に引き続き、鈴木輝昭さんの委嘱作品ということでヤル気がみなぎっていました。詩篇22という重い内容から取った曲でしたが、絶望から希望へと移り変わる姿に大変心打たれるものを感じ、練習にも力が入りました。



高等学校音楽部の皆さん

★反響はありましたか？

「難しい曲をよく歌いきった」というお褒めの言葉を、色々な方面からいただきました。特にキリスト教に詳しい方からは、高校生の歌った委嘱作品について「難しい内容をよく表現できましたね」というようなお言葉もいただきました。



佐藤先生

★生徒の皆さんの反応はどうでしたか？

今回初めて中高両方で全国大会出場ということで、皆喜んでいました。その分、私は大変でしたが(笑)。2010年は色々と大会に出場した経験を積んだためか、特に中学生が伸びてきている印象があります。生徒たちには常に上質なものをみて、育てて行ってほしいと思います。

～★～

合唱の指導者として高名な佐藤先生ですが、教育者としても生徒たちを温かい愛情で見守っている印象を感じました。(両団体とも金賞+特別賞)

■透明感ある豊かな響きでホールを魅了

一般部門Aグループで出場したマルベリー・クワイアとマルベリー・チェンバークワイアは、ともに桑原妙子先生指揮の下、小田原少年少女合唱団のOB/OGが中心となり、演奏活動を続けています。

前回に引き続き、今回も両団体そろっての全国大会出場となりました。



素晴らしい演奏で会場を沸かせたマルベリー・クワイア

11月20日の本番にまず出場したのはマルベリー・クワイア。課題曲の出だしから完成度の高い上品な響きが会場中を包み込みます。思わず聴き惚れていると、いつの間にか自由曲へ。

自由曲1曲目の『Mendian Gora』では、私の音楽人生で初めて、低い方にできる倍音のような音が聞こえま

した。もしかすると、実際に声を出して演奏したのかもしれませんが、まるで弦楽のコントラバスの響きを聴くような素晴らしい低音が瞬間、ホールに響きました。会場の聴衆も演奏に聴き入っている様子が手に取るように分かりました。

自由曲2曲目の『Zima』では、1曲目と打って変わってとても楽しい印象の曲で、聴衆の皆さんも楽しく聴いている印象を受けました。あえて課題を探すとすれば、演奏途中で出てきた息による摺過音の部分が、やや表現に乏しいような印象を受けましたが、演奏終了後の会場の湧き上がり方を見ていると、『神奈川の女王』とでも表現できるような威厳と気品に満ち溢れた神々しさを、この団体に感じました。(銀賞)



記念撮影中のマルベリー・チェンバークワイア

続いてはマルベリー・チェンバークワイアの演奏です。まずは課題曲。

どちらかという、しっとりしたおとなしい印象の課題曲G1ではありましたが、マルベリー・クワイア同様、透明感の豊かな音色に心を奪われました。

自由曲1曲目は『Movement IV』というロシア語の曲。フォルテ部分の演奏の安定感はずが！と思わせるものがありました。

自由曲2曲目はさきほどの曲とは全く対照的な印象を持つフィリピンの数え歌で、客席も湧き上がっていました。演奏のあまりの楽しさに、私もコンクールの緊張感を忘れ、思わず微笑んでいたのを覚えています。

(金賞)

演奏終了後、桑原妙子先生にお話を伺いました。

「とてもよいホールで幸せでした。両団体とも音楽性で違いはなく、女声か混声かの違いだけです。楽譜は日本ではまだ広まっていない作曲家の曲を作曲家の方から直接入手したりすることで、演奏しています。また、普段外国語を演奏する時には現地出身の方にご協力いただき、発音の指導などを受けるのですが、今回演奏したフィリピン語など、非常に方言の多い言葉などは、イ

インターネットのユーチューブ(動画サイト)を使って、現地での実際の演奏などを参考にしながら練習を積み重ねました。どちらにしても、楽しく歌えたのがよかったです」



演奏終了後笑顔を見せる桑原先生

演奏終了後、写真撮影の場で垣間見た演奏者の皆さんの素晴らしい笑顔が印象的でした。

来年度も素晴らしい演奏を期待しています。

■関東職場の希望の星～富士通川崎合唱団

11月21日のトップバッターは職場部門の富士通川崎合唱団です。今回で5回連続の全国大会出場となり、全国大会でもすっかりおなじみになりました。

毎回自由曲はラテン語の宗教曲で本番に臨んでいますが、今回はラトビアの作曲家の作品で挑戦です。



本番の朝、神戸のチャペルで最終練習

富士通の課題曲のG1は快活なテンポ設定で、自信を持って進んでいきます。指揮者の加藤雅子先生は「楽譜を見たときから、快活なテンポを意識しました。当時のマリア様の年齢が十代半ばいうことを考慮すると、瑞々しい演奏のほうがイメージに合うと、私は意識しました」と語っておられました。



課題曲とは一転、自由曲の『Miserere Mei』はラトビア独特の響きでしっとりと聴かせる名曲。今回のコンクールを通して美しい曲の一つではなかったでしょうか。ただ、その分だけきれいに音程感を作り出せ

なければ崩れてしまいますが、見事な音程感で会場を包み込みました。会場からも息をのむ音が聞こえたほどです。



演奏終了後、満足な笑顔の富士通川崎合唱団

自由曲2曲目の『Ubi Caritas』はピアノからフォルテまで徐々に大きくなっていく、ラヴェルの『ボレロ』を彷彿とさせるような曲ですが、その分ブレスが続かないと崩れてしまいます。最後の部分で若干勢いがつきすぎた個所もありましたが、きれいに歌い上げ、会場は温かい拍手に包まれました。

指揮者の加藤先生に全体的な印象を伺いました。

「県大会、関東大会、全国大会と来て、今日の出来が一番良かったです。歌いやすく素晴らしいホールでした。全員仕事や生活を抱えていますので、練習に参加できる、できないという差も出てきますが、本当に団員の皆さんは頑張っていると思います。特に自由曲の『Ubi Caritas』を一つにまとめようという集中力が素晴らしかったです」



加藤先生

現在の部門制での最後のコンクールとなる2011年度に向けて、『職場の火』を最後まで守り続けてください。(銅賞)

■ベルベットの音色で魅了～湘南はまゆう

今回で3回連続の全国大会出場となる湘南はまゆう。濃紺のベルベットで仕立てられた、美しいドレス姿は、コンクールでもすっかりおなじみとなりました。

まず演奏したのは課題曲F3。過去の演奏よりも、更に一層演奏の丁寧さ、ピアノ部分の繊細さに磨きがかかったような印象を受けました。連続出場の影響でしょうか、演奏内容にも余裕が見えます。会場はまるで魔法にかけられたかのような、息をのんだ静けさが包み込んでいました。

続いて自由曲。今回の演奏曲『音色は何色ですか?』は、はまゆうが委嘱した曲で、大変ドラマチックな印象を持つ曲です。この曲の副題は「作品と向き合うピアニストの孤独」で、ピアニストの孤独な世界観を合唱を通じて表現した曲です。



着替えも終わって、みんなで集合写真

はまゆうの演奏は壮大な印象を受けるもので、力強さと繊細さが同居し、会場の聴衆を虜にしていました。

「やってきた練習の通り、いつもの『はまゆう』として演奏できました。この合唱団はよく練習を重ねており、その結果が全国大会出場に結びついていたと思っています」と語っていただいたのは指揮者の松村努先生。演奏終了後、団員に囲まれた時の和やかな表情が印象的でした。



松村先生

はまゆうのピアニストといえはこの方、織田祥代先生に自由曲の印象をお伺いしました。

「ピアニストが孤独と闘いながら演奏していくという曲で、伴奏者というよりは協奏曲のようなイメージで演奏させてもらいました。作詩がピアニストの方で、この詩が私にダイレクトに響きました。合唱団とともに作り上げていった！と強く感じた曲でした」と語っていました。

来年度も素晴らしい演奏を期待しています。(銅賞)



演奏終了後(左)と表彰式の様子(右)

■素敵な演奏と民族衣装で会場を魅了
～小田原少年少女合唱隊

神奈川県勢のトリを飾るのは、皆さんご存じ小田原

少年少女合唱隊です。



素敵な民族衣装を以て記念撮影

全国大会では刺繍まで手作りした、素敵な東欧風の民族衣装で毎回会場中を魅了しています。

もちろん、衣装だけではありません。その演奏も毎回評価が高く、今回も演奏の前後では会場から大変な拍手が沸き起こっていました。

課題曲はF1。子供たちの声を持つ素晴らしい透明感、私の拙筆では表現しきれない、ある種感動を覚えるほど素敵な印象です。

また自由曲1曲目の『Esti dai』では静かに聴かせて、2曲目の『Ate Netsik』ではしっかりとフォルテを作って立体感を出し、曲構成のメリハリをつけているのも好印象でした。



表彰式にて

指揮者の桑原妙子先生は「今日は楽しく歌おう！というのが目標でした。実際、楽しく歌えたので、とても満足しています」と、語っていただきました。

更に、子供たちの指導についても伺いました。

「私たちの合唱団は『時代の鏡』です。ちょうど中学生くらいの難しい時期ですが、『仲間がいる』『誰かが私を受け入れている』ということを理解してくれば、一番うれしいです。合唱よりも大切な目標だと思っています」

桑原先生の子供たちに対する強い愛情を垣間見ることができました。これからも素晴らしい指導で、子供たちを温かく見守ってください。(銀賞)



桑原先生

(記事・写真 カノン担当：栗林)

『かながわの合唱団を訪ねて』

第9回：【婦人】コール高森

11月のある日。今回取り上げたコール高森の取材をするために、伊勢原市民合唱祭に顔を出しました。会場は伊勢原市民文化会館です。

ホールには300人～400人程度でしょうか。合唱を楽しむ仲間たちが集い、各合唱団の演奏を聴きあい、心を合わせて合同合唱を楽しんでいたのが微笑ましく、温かみを感じました。ただ印象に残ったのは、会場に参集された方々の平均年齢の高さです。十代～三十代までの年齢層の方が少ないように感じました。

近年、シニア世代における歌に対する熱意の増大には、目を見張るものがあります。反面、若年層における少子化の進行や合唱スタイルの少人数化、若年層男子の合唱離れなど、合唱界が抱える大きな課題を、この合唱祭からも感じました。

さて、本日紹介する合唱団はコール高森です。この日の合唱祭で歌っていたのは17名。パールの光沢に輝く美しいブラウスを身にまとい、ホールいっぱいに響く声で会場中を魅了していました。

妙に力んだところはなく、ヴィブラートも適度に響かせる程度。個々の音が密集していて合唱団としてのまとまりを感じさせる演奏でした。また声の質の温かさは、この合唱団の特色の一つでもあることでしょう。



伊勢原市民合唱祭での演奏風景

コール高森が結成されたのは今から37年前のこと。伊勢原の近隣の方が集まって結成しました。1981年から故関谷晋先生に指導を仰ぎ、1984年には第1回演奏会を開催。以後隔年開催で演奏会を催し、2004年には第10回演奏会を開くまでになりました。

ところが2005年、関谷先生が急逝されます。その影響は大きく、一時期30人を超えていた団員は一人抜け、二人抜けと減少の一途をたどり、一時は解散の危機に瀕したこともありました。しかしコール高森を愛する団員の必死の努力により、現在の指揮者である松村努先生を迎え、新生『コール高森』として、今も美しい歌声を響かせています。

2010年9月には松村先生指揮の下で初めてとなる演奏会を開催。現在も伊勢原を中心に、地域に密着した演奏活動を繰り広げています。



演奏会の写真と練習時の様子

「関谷先生が急逝されて、合唱団が大変なことになっているということで、当時の団内指揮者の方から話があり、お引き受けすることにしました。関谷先生が大変可愛がっていた合唱団というのは知っていましたし、当初はプレッシャーを感じました。これからはもう少し人数を増やして、更に女声合唱の魅力を引き出せるようにしたいですね。」

このようにコメントいただいたのは、指揮者の松村先生。その語り口からはコール高森に対する愛情と、団を盛り上げていきたい思いが伝わってきました。



団員の皆さんと松村先生

代表の冨井さんにお話を伺いました。

「今、団員数は21名ですが、とにかくたくさんの人たちと一緒に歌いたいですね。そのためにも是非入団していただける方を募集しています。」

広報担当の和田さんは「音楽の引き出しをいっぱいもっている松村先生の指導は、本当に勉強になります。先生の力で私たちの音楽性を引き出してもらっています。練習の2時間があつという間です。」と、松村先生に対する熱い思いを語っていただきました。

(記事：カノン担当 栗林)

～合唱団概要～

- 名称：コール高森
- 指揮者：松村 努
- ヴォイストレーナー：田中 詩乃
- ピアノ：佐藤 涼子
- ★団員募集中です。ご一緒に歌いませんか？★
- 連絡先：広報担当 和田
- TEL：0463-93-1766
- HP：<http://takamori.jimdo.com/>

ヴォーカルアンサンブル・ヴィクトリア

歌の本場、イタリアへ演奏旅行
その音楽性と技術にイタリア人も驚愕！



イタリアといえば、歌曲の本場。歌に携わる者として、いつかは訪問してみたい国、あこがれの土地であることは皆さんもご承知の通りです。

その夢をかなえた合唱団が神奈川県にあることをご存知でしょうか。それもローマのサンピエトロ大聖堂をはじめとして、システーナ礼拝堂やアッシジのサンフランチェスコ大聖堂など、世界に名を知られた各地の高名な教会のミサで演奏するという、めったにない機会を満喫したのが神奈川県を代表する女声合唱団、ヴォーカルアンサンブル・ヴィクトリア(以下ヴィクトリアと略)です。



ボローニャでの演奏風景

この合唱団は2001年3月に横浜雙葉学園聖歌隊のOGを中心としたメンバーで結成されました。現在は、声楽を勉強している音大生を含む学生、社会人などのメンバー約20名で活動しています。

指揮者は川上勝功先生。私の説明が不要くらいご高名な方ですが、先生にこの合唱団を結成した経緯をお伺いしました。

「私は日本声楽発声学会で活動していますが、ヨーロッパの人と比較すると日本における声楽の発声については、まだまだ立ち遅れていると感じています。本当の発声とは何かということ表現し、世に広めたいと考え、この合唱団を結成しました。」

川上先生のご自宅へ取材にお伺いしたこの日、ちょうど行われていた練習を拝見させていただきました。この日の参加者は6名と少なかったものの、素晴らしい声量とアンサンブルの洗練された美しさに感銘を受けました。が、それにもましてちょうど練習していたAve Mariaのラテン語の発声の素晴らしさは、まるで古いにしえのローマ人が歌っているかの如く、ごく自然に感じ

させる、それでいて深みのある発声は、川上先生の普段からの指導の素晴らしさが具現化されていました。



イタリアでの演奏のことを川上先生にお伺いしました。

「向こうの人は私たちのことを最初不審の目で見ていました。どうも私たちの姿を見て、非力な少女合唱団と見たらしいのです(笑)。私たちの団員は平均年齢が20歳台ですから、向こうの人から見れば子供にしか見えなかったのでしょうかね。ところが、演奏が始まるや『アメイジング!』を連発。すっかり気に入っていただき、また来てほしいというお話もいただきました。」

この話をお伺いして、同じ神奈川県の合唱人として、ちょっと誇らしい気持ちになりました。

現地での詳細は2010年の『ハーモニー』秋号55ページに掲載されていますので、ご購入されている方はご一読いただければと思います。

参加した団員の方にもいろいろとお伺いしました。その中の一人、篠明日香さんは「宗教のことはあまり詳しくありませんが、本当のミサでないと感じることをできない

ものを歌いながら感じました。私は建築が好きなのですが、イタリアで本物の石造りの西洋建築に触れて、感動したことも私の宝物です。」

皆さんのお話をお伺いすると、イタリアでの演奏が及ぼした影響は本当に大きく、心を揺り動かしたようです。これからもその感動を、素敵な演奏で私たちに聴かせてください。

(取材 カノン担当：栗林)



川上先生指導の練習風景



バチカンでの演奏風景

～新任理事紹介～

2010年度も、たくさんの方々に加入していただきました。カノン秋号に引き続き、新任理事の皆さんをご紹介します。県連の行事で見かけたら、応援してください。(紹介順不同)

	質 問	コ メ ン ト
	氏名	藤雄 太久夫 (ふじお たくお)
	所属合唱団	混声♪青葉
	パート	テノール
	趣味・特技	旅行、ウクレレ
	抱負を一言	若い方々のエネルギーをいただきガンバります。
	氏名	守谷 光司 (もりや こうじ)
	所属合唱団	コール・ダンヘル男声合唱団
	パート	テノール
	趣味・特技	コーラス、絵たより、弓道
	抱負を一言	この道の多くの大先輩方に交って足手まといになるのではないかと危惧しております。
	氏名	中島 久子 (なかじま ひさこ)
	所属合唱団	ブルースカイ
	パート	ソプラノ
	趣味・特技	コーラス、読書
	抱負を一言	思いかけず新たな経験をさせていただく機会を得、感謝と共に自分なりに一生懸命取り組みたいと思います。
	氏名	浜 智恵子 (はま ちえこ)
	所属合唱団	ひまわり会
	パート	アルト
	趣味・特技	コーラス、植木の手入れ
	抱負を一言	出来ることを探しながら、グループ活動にそっていきたいと思っています。
	氏名	岩村 夏樹 (いわむら なつき)
	所属合唱団	県立厚木商業高等学校音楽部
	パート	指揮
	趣味・特技	読書 (ジャンル問わず)
	抱負を一言	高校時代は合唱連盟に大変お世話になりました。少しでもご恩返ししたく、がんばります。
	氏名	高橋 ちとへ (たかはし ちとえ)
	所属合唱団	高津市民合唱団
	パート	アルト
	趣味・特技	音楽鑑賞
	抱負を一言	すべてが未知のことですので、皆さんに教えていただきながら努めて参りたいと思います。

	質 問	コ メ ン ト
	氏名	山田 晴一郎 (やまだ せいいちろう)
	所属合唱団	横浜国立大学グリークラブ
	パート	セカンド・テナー
	趣味・特技	エアロビクス
	抱負を一言	1年間の短い任期ではありますが、自分が出来る範囲で精一杯頑張りたいと思います。
	氏名	伊東 絵美 (いとう えみ)
	所属合唱団	鎌倉女子大学合唱団
	パート	ソプラノ
	趣味・特技	映画鑑賞、読書
	抱負を一言	今年度、よろしく願いいたします。



★新連載★



副理事長のつぶやき



【第2回】指揮をするということ



平井 保

カノンが送る
新連載第一弾！
平井副理事長が
本音を語ります

私が指揮について語る事など、天を恐れぬ所業と言えるかも知れませんが、50年近い合唱指導の経験に免じてお許しを頂きたいと思ひます。以下は私の指導方法を書いたものです。

アマチュア合唱団の場合、指揮者の役割は90%以上がトレーニングです。楽譜に書かれている音符を音として再現することにエネルギーを注ぎます。この時、どこまで正確な音に出来るかで曲の完成度が変わります。その為には個々人の発声を見ることや、レガート、スタッカート、アクセント、クレッシェンド、ディミヌエンド等、具体的な歌い方の指導も必要です。

また、何よりもハーモニー感を育てることが大切です。主和音のド・ミ・ソという3つの音も、正確に出すと素晴らしいハーモニーになるのですが、本当のハーモニーを体感しないとこのすばらしさは判らずじまいに終わってしまうのです。楽譜を縦の線で見ると、重なっている音が和音であり、一小節の中にも何種類もの和音があります。そのひとつひとつが正確であることが重要なのです。練習の時にメロディーの流れに沿って歌うばかりでなく、数小節だけでもゆっくりと正確に歌ってみて、ハーモニーの素晴らしさを味わってみよう、指導しています。もちろん、指揮者には正確な音を感じる力が必要であることは、言うまでもありません。

次に、指揮法についてです。

自分の合唱団だけであればどんな指揮をしても団員がそれに慣れてくれますので、大きな問題は発生しません。しかし歌う側からみますと、指揮が却って邪魔になったり、どこから出ていいのかわからなかったりすることがあるものです。例えばフェルマータの場合にどのようにするのか、レガート、スタッカートはどのような棒を振るのか、休符の扱いはどうするのか。等々やはり技術が必要になると思ひます。

本来私はまずプレスをしっかりと与えることを大切にしています。また、指揮においては一拍前に次がどうなるかを示すものだと考えておりますので、そこをどう振り分けるのか、といったことを重要視しています。頭ではわかっていてもこれを体現するとなるとやはり訓練が必要な訳です。指揮法に技術が必要であることは言うまでもありませんが、これを会得するのはやはり大変なことだと思ひます。

指揮をする前には、楽譜をよく読み、ここをどう表現したらよいのか、そのために棒はどう振るのか等、考えてから臨むのは当たり前ですが、今でも歌いやすいように振るにはどうしたらよいのかと、研究の毎日です。とかく表現に重点を置いて振る方もいらっしゃるようですが、やはり歌いやすい棒を心がけるべきではないかと常に思っています。東京芸術大学教授であられた故・金子登先生のレッスンに通った13年の月日は、この基本を学ぶことの繰り返しでした。現在の私があるのはこのレッスンのお蔭であると、先生には大変感謝しています。



本番前控室にて

カノンコンサートガイド

<p>1/16 (日)</p>	<p>アンサンブル KATOO 「アンサンブル KATOO 第 6 回定期演奏会」 14:00～ 横浜市南公会堂 入場無料 お問い合わせ：HP http://sound.jp/ekt/ , e-mail : ekato@mbn.nifty.com 委嘱初演「ハナミズキ(坂部剛)」。信長貴富「島唄」「ノスタルジア」など現代曲から宗教曲まで 4 ステージ</p>
<p>1/26 (水)</p>	<p>南区合唱団サウスウインド 「南区合唱団サウスウインド 10 周年記念コンサート」 13:30～ 港南区民文化センター「ひまわりの郷」 入場無料 お問い合わせ：長村 045-731-1063 「さくらの花は」「西行」他 藤元薫子作曲・指揮、「落葉松」「霧と話した」他 吉田顕(指揮)、上田ますみ(ピアノ)</p>
<p>1/30 (日)</p>	<p>川崎混声合唱団 「創立 50 周年記念 第 45 回定期演奏会」 14:00～ 麻生文化センター大ホール 入場料：1,000 円(全席自由) お問い合わせ：鈴木 044-422-2307 創立 50 周年を記念し、「蔵王」を演奏いたします。団員創作曲のステージもお楽しみください。</p>
<p>2/6 (日)</p>	<p>日本女子大学附属高等学校コーラスクラブ 「第 40 回定期演奏会」 13:30～ 日本女子大学西生田成瀬講堂 入場無料 お問い合わせ：日本女子大学附属高等学校 山田真里 (Tel)044-952-6711 e-mail : myamada@fc.jwu.ac.jp 言葉の美しさを味わえる曲を、心を込めて歌います。部員一同皆様のご来場を心よりお待ちしております。</p>
<p>2/27 (日)</p>	<p>あすなろ混声合唱団 「第 6 回 定期演奏会」 14:00～ 鎌倉芸術館小ホール 入場無料(整理券が必要です) お問い合わせ：水戸 046-866-4766 (Tel&Fax) e-mail : ys801058@fsinet.or.jp HP http://www.orahoo.com/asunaro/ ドヴォルジャーク「自然のなかで」をチェコ語で演奏、メインステージは「水のいのち」です。指揮：上田勤</p>
<p>3/17 (木)</p>	<p>女声合唱団 湘南はまゆう 「第 12 回コンサート」 19:00～ 茅ヶ崎市民文化会館大ホール 入場料：1,000 (全席自由) お問い合わせ：鈴木 0467-85-5785 HP http://www.k4.dion.ne.jp/~s-hamayuu/index.html 『雨に歌えば』ではオリジナルアレンジの“雨にぬれても”“雨に唄えば”ほか楽しいステージをお届けします。</p>

<p>3/20 (日)</p>	<p>コール・アイリス 「コール・アイリス演奏会」 14:00～(予定) 杜のホールはしもと 入場料:500円(予定) お問合せ:HP http://space.geocities.jp/chorusiris/ e-mail:toushi@gw7.u-netsurf.ne.jp(松岡) 初めての単独演奏会です。まだまだ未熟な私達ですが、明るく楽しく精一杯歌います。是非ご来場ください。</p>
<p>3/26 (土)</p>	<p>湘南男声合唱団 「第6回演奏会」 14:00～ 県立かながわ女性センターホール(江の島) 入場料:1,000円(全席自由) お問合せ:津田 046-267-2152 HP http://www.kogatec.com/shonandansei/ 創立23年目、第6回演奏会です。ルネサンス時代のミサ曲、青い照明(清水脩)、他を演奏します。</p>
<p>3/29 (火)</p>	<p>県立多摩高校合唱部 「第45回定期演奏会」 18:00～ 麻生市民館大ホール 入場無料 お問合せ:小川 044-911-7107 HP http://mado.s31.xrea.com/tamachorus/ 一年間の集大成として様々な曲を皆様にお届けします。お誘い合わせの上、是非お越し下さい。</p>
<p>4/3 (日)</p>	<p>女声合唱団 クール・クロア 「52周年定期演奏会」 14:00～ 藤沢市民会館大ホール 入場料:1,000円 お問合せ:岡田 045-413-1597 信長貴富作品、武満徹作品、大竹くみ作品等を指揮箕輪健、ピアノ河本充代、バイオリン宮下要で演奏します。</p>
<p>4/8 (金)</p>	<p>コーロ・ステラ 「コーロ・ステラ 第4回演奏会」 19:00～ 横浜みなとみらいホール 小ホール 入場料:1,000円 お問合せ:中島 03-3441-5821 (Tel&Fax) e-mail:nyuri@plum.plala.or.jp 「今日もひとつ」「星★ステラ★の歌」などを、清水昭指揮、佐竹優子ピアノで演奏します。</p>
<p>4/9 (土)</p>	<p>アマポーラ 「10周年記念コンサート」 14:00～ 藤沢市民会館小ホール 入場無料 お問合せ:大竹やよい 0466-23-1944 (Tel&Fax) コツコツ歩いてきた道。歌える幸福に感謝して、中田喜直曲集、ロセッティ4つの歌、気まぐれなエッセイ他</p>
<p>4/16 (土)</p>	<p>鵜沼女声合唱団 「鵜沼女声合唱団 創立60周年記念演奏会」 14:00～ 藤沢市民会館小ホール 入場料:1,000円(全席自由) お問合せ:高内久子 0466-27-7803 (Tel&Fax) 60年の歩みの集大成です。鵜沼女声らしい演奏ができればと思っています。♪雛の春秋♪花のかず他</p>
	<p>混声合唱団 ハニカムズ 「4th コンサート」 14:30～ 神奈川県民ホール小ホール 入場無料(ただし整理券が必要) お問合せ:山本治子 045-881-9825 (Tel/Fax) ホームソングメドレー1(源田俊一郎)、「水のいのち」(高田三郎)、「ほほえみ」(鈴木憲男)、他を演奏します。</p>

<p>4/23 (土)</p>	<p>横須賀女声合唱団 「第8回演奏会」 15:00～ よこすか芸術劇場大ホール 入場料：1,500円 お問合せ：河野桂子 046-841-0753 「ふるさと」/寺嶋陸也、「横山潤子作品集」、「海鳥の詩」/廣瀬量平 指揮：清水敬一 ピアノ：池浦真紀子</p>
<p>4/30 (土)</p>	<p>横浜木曜会 「第42回定期演奏会」 13:30～ 神奈川県立音楽堂 入場料：1,500円 お問合せ：村山 045-331-6059 (Tel&Fax) e-mail：t-mura@fureai.or.jp HP http://super.fureai.or.jp/~t-mura/mokuyoukai/index.html ヴィヴァルディ「Gloria」、フォーレの「REQUIEM」、日本抒情歌曲を演奏致します。是非お聴きください。</p>



★新連載★

コール・キリエ団長日記 ～親分はつらいよ～



【第2回】 コンクールの意義①



鈴木 行

カノンが送る
新連載第二弾！
コンクールの親分が
本音トークで迫ります

さて今回は自己紹介という形で逃げた感のある我がコラムですが、2回目からはコラムらしい内容にしなければ…と言う訳で、ここは『コンクールの親分』らしく、コンクールの意義の様なものを、何回かに分けて私なりに述べていきたいと思ひます。字数の関係で尻切れトンボに終わってしまいますが、次号に続いていきますので宜しくお願いします。

「音楽の様な芸術の世界に、順位や点数をつけるのはおかしい」と言う意見を聞く事があります。確かに、陸上競技や球技は所要時間や投げた距離、得点等が客観的数値として表れるので順位が付けやすく、見る側も納得がいきます。その点芸術の世界



高校時代の演奏風景

での順位付けは審査員の専攻や、場合によっては好みなども影響してくるかもしれません。故に同じ団体について、ある審査員は1位を付けているのに別の審査員はビリを付けている、と言う様に客観的には分かり難い側面もあります。しかし、付けられる順位にこだわるだけではなくて、以下に記すような『良さ』もあるのではないのでしょうか。

まず1点目は、『1つの曲と深いお付き合いが出来る』と言う点です。曲への取り組みの形は合唱団により様々だと思ひますが、主な取り組み方は①取り組む期間を予め決める、②出演するイベントの開催時期に合わせて取り組む、③時間に囚われる事無く納得がいくまで歌いまくるetc. という感じでしょうか。そしてコンクールは②に当てはまると思ひます。

続きは次号にて…

★重要★

2011年度の神奈川県合唱コンクールは中学校・高等学校の両部門の開催日程が8月24日（水）となりますのでご注意ください。詳しくは次ページ参照。

——全日本合唱コンクール課題曲集予約申込及び販売のお知らせ——

平成23年度合唱コンクール課題曲集（合唱名曲シリーズNo.40）の予約を受け付けます。1月31日（月）までに申し込まれますと早くお手元に届き、30冊以上申し込まれると版元から直送され、送料も無料になります。3月中旬から県連事務所でも販売いたします。

「合唱名曲シリーズNo.40（平成23年度全日本合唱コンクール課題曲集）」
価格 定価：1,000円（消費税込） 発行日：平成23年3月10日（予定）

【曲目一覧】

[混声]

- G1 O quam gloriosum est regnum (Jacobus Vaet 曲)
- G2 Der Augenblick (Karl Wilhelm Ramler 詩 / Joseph Haydn 曲)
- G3 父の唄（「若者たちの悲歌」から）（谷川俊太郎詩 / 高嶋みどり曲）
- G4 やわらかいいのち（「あなたへ」から）（谷川俊太郎詩 / 松本 望曲）

[男声]

- M1 Si j'ay perdu mon amy (Josquin des Prez 曲)
- M2 Dir, Seele des Weltalls
(Lorenz Leopold Haschla 詩 / Wolfgang Amadeus Mozart 曲)
- M3 冬・風蓮湖（岩間芳樹詩 / 高田三郎曲）
- M4 隕石（「恋のない日」から）（堀口大學詩 / 木下牧子曲）

[女声]

- F1 Lascia Filli mia cara (Jan Pieterszoon Sweelinck 曲)
- F2 Judicabit in nationibus (詩篇110「Dixit Dominus」から)
(Baldassare Galuppi 曲)
- F3 私のいのちは（「五つの心象」から）（立原道造詩 / 小林秀雄曲）
- F4 けれども大地は…（「夢のうちそと」から）（新川和江詩 / 土田豊貴曲）
(平成22年度合唱組曲作品公募入選作品《第21回朝日作曲賞》)

※各声部の2曲目のテーマは「古典派～初期ロマン派」

※G2、M2、M3、F2、F4はピアノ伴奏付き、他の曲は無伴奏。

※G1、F2はラテン語。G2、M2はドイツ語。M1はフランス語。F1はイタリア語。

— 県連からのお知らせ —

第34回神奈川県合唱フェスティバル 『まど・みちおさんのうたの世界』

日 時：2011年2月11日（金・祝） 14時開演
 会 場：県立音楽堂
 入場料：無料（要入場整理券）
 内 容：神奈川県ゆかりの詩人、まど・みちお作詩による合唱曲を集めた演奏会

第13回かながわヴォーカルアンサンブルコンテスト

日 時：2011年3月13日（日） 10時20分演奏開始（予定）
 会 場：県立音楽堂
 入場料：1,000円
 内 容：2名以上20名以下の小編成のヴォーカルアンサンブルコンテスト
 審査員：鈴木成夫（指揮者）、徳永祐一（指揮者）、渡辺三郎（指揮者）

第33回神奈川県ジュニア合唱祭

日 時：2011年4月2日（土） 13時開演（予定）
 会 場：県立音楽堂
 入場料：無料
 内 容：県内のジュニア合唱団が集まり楽しい演奏を披露します。
 講 師：新実徳英（作曲家）、宮本益光（声楽家）

第54回神奈川県合唱コンクール（中学校・高等学校両部門は8月開催です！）

日 時：平成23年8月24日（水） 中学校部門・高等学校部門 10：30 開演予定
 平成23年9月4日（日） 大学・職場・一般部門 12：00 開演予定
 会 場：県立音楽堂

※各行事ともお問合せは県連事務局へ

☆コンサートガイド掲載要綱☆

神奈川県合唱連盟に所属していれば、この「カノン」にコンサートのお知らせを掲載することができます。掲載方法は「無料掲載」と「有料掲載」があります。それぞれ、必要事項を記したものを郵送かFAXまたはe-mailにて編集室までお申し込みください。ただし、無料掲載は1演奏会につき一度だけとさせていただきます。なお、有料掲載と無料掲載の両方を希望する場合は、それぞれ個別にお申し込みください。

- 1 無料掲載：①合唱団名 ②演奏会名称 ③開催日時 ④会場 ⑤入場料等 ⑥問い合わせ連絡先(Tel / Fax / e-mail / HPの記載可) ⑦コメント(50字以内)を掲載いたします。
- 2 有料掲載：1/8\$~2,500円(1/4\$~5,000円、1/2\$~10,000円、1\$~20,000円)での有料掲載を行います。内容は基本的に自由ですが、事務局がカノンに掲載することがふさわしくないと判断したものについてはお断りすることがあります。希望するサイズでの出力見本(手書きも可)をメール、FAX等で送っていただき、各合唱団が作成した原稿をそのまま掲載するか、原稿案を元に事務局で作成いたします。

※カノン発行月と原稿締め切りの予定：夏号 7月10日発行予定(×切：5月10日) 秋号 10月10日発行予定(×切：8月10日) 冬号 1月10日発行予定(×切：11月10日) 春号 4月10日発行予定(×切：2月10日)

<取材希望団体募集>「かながわの合唱団を訪ねて」のコーナーでは、取材を希望する合唱団を募集しています。希望団体は県連事務局にご連絡下さい。スタッフが取材いたします。

<編集後記>今回はコンクール全国大会にアンサンブル・ヴィクトリアの取材、コール高森の取材と、一年で一番多忙な時期にもかかわらず山盛りの企画となりました。かなり大変でしたが、温かく取材にに応じていただいた皆さんと、文句も言わず熱心に編集作業に取り組んでいただいている理事の皆さんに感謝します。この場を借りて御礼申し上げます。(編集長：K)

神奈川県合唱連盟 情報誌「Kanon(カノン)」

編集・発行 神奈川県合唱連盟・カノン編集委員会
 発行責任者 田中登志生 編集責任者 栗林宏至

神奈川県合唱連盟・事務局

〒231-0021
 横浜市中区日本大通 15 横浜朝日会館 4階
 TEL：045-681-6033 FAX：045-662-5119
 スタッフ常駐・毎週月～金（休祝日を除く）12:00～16:00
 ホームページ URL <http://kanagawakenren.la.coocan.jp/>
 e-mail アドレス kanagawakenren@nifty.com

